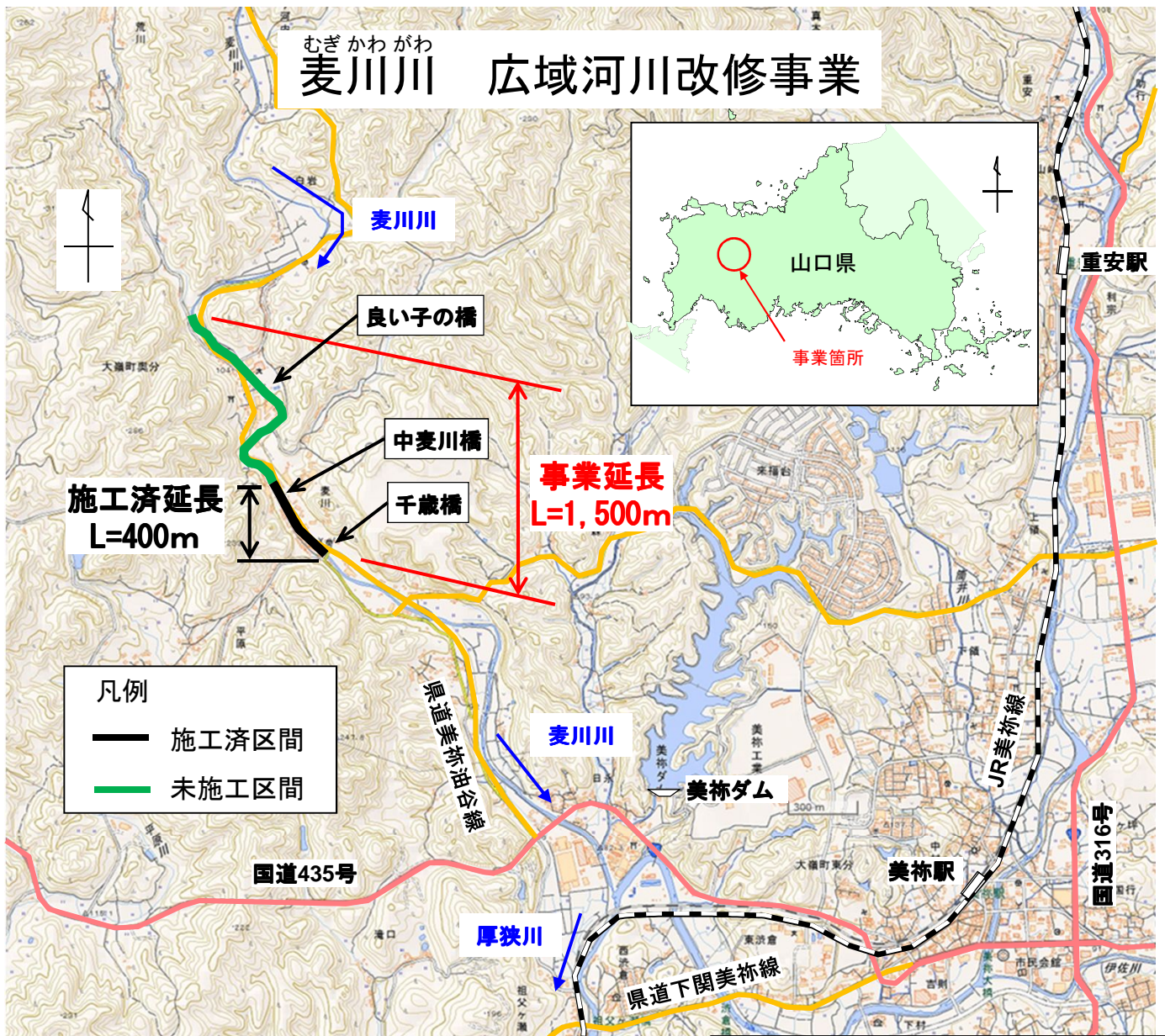


再評価実施要件		○事業採択後（ 年 ） ●再評価後（ 5年 ） ○その他（ ）					
1 事業概要	事業名	むぎかわがわ 麦川川 広域河川改修事業					
	事業場所	おのみねらよう 美祢市大領町 地内					
	事業主体	山口県	事業方法	●国庫補助 ○単独			
	財源・負担割合	●国 50% ●県 50% ○市町 % ○その他 %					
	事業期間	《事業採択時[再評価時]計画変更時》 平成 25 年度 ~ 平成 44 年度 《平成44年度》					
	総事業費 (内用地補償費)	《 865 百万円》 (865 百万円) (156 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	300 百万円 (109 百万円)	進捗率 (用地補償費)	35 % (70 %)	
	事業目的	麦川川は、美祢市於福にある雁飛山を源とし、美祢市祖父ヶ瀬付近で厚狭川に合流する流域面積22.7km ² 、流路延長11.1kmの二級河川である。 洪水に対する安全度が低く、平成15年7月の豪雨や平成22年7月の豪雨により浸水被害が起きていることから、河川改修を実施し、浸水被害の軽減を図る。					
	事業内容	延長L=1,500m 河道掘削工、護岸工、橋梁工					
2 再評価の視点	(1) 社会経済情勢の変化	社会的評価	近年、集中豪雨や大型台風等による被害が全国各地で多発している状況を踏まえ、防災・減災対策を実施し、安心・安全が確保された社会を早期に構築することが必要とされている。 本県の河川は、勾配が急で流路延長が短い河川が多く、河川沿いの低平地に人口・資産が集中している。このため、ひとたび洪水によるはん濫が起これば被害が甚大になることから、治水対策に対する社会的評価は高い。 麦川川では、平成15年、22年の豪雨により、浸水被害が発生しており、早急に治水対策を実施する必要がある。				
		当地区の社会経済情勢	公共施設や事業所、家屋が立地しており、県道美祢油谷線も整備されている。				
		必要性	平成15年7月の梅雨前線豪雨により床上浸水6戸、床下浸水13戸、浸水面積12.6ha、平成22年7月の梅雨前線豪雨により床上浸水5戸、床下浸水15戸、浸水面積0.9haの被害が発生した。 このような浸水被害を解消するため、治水対策を実施する必要がある。	中項目評価	大項目評価		
		適時性	本県においては、平成21、22、25、26年と甚大な浸水被害が発生している。当地区においても、平成22年7月の梅雨前線豪雨により、床上浸水5戸、床下浸水15戸、浸水面積0.9haの被害が発生しており、早急に治水対策を実施する必要がある。	中項目評価	A ・ B ・ C		
		地元の推進体制等の状況及び地元の意向	【地元の推進体制等の状況】 当該事業は、自治会、漁協、河川愛護団体等の地元関係者や学識経験者等により構成する川づくり検討委員会です承されている。 【地元の意向】 これまでの浸水被害の経験から、地域住民の被害軽減に対する要望は強い。	中項目評価			

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	事業の投資効果 整備効果発現状況 (H29年度まで)	これまでに千歳橋から中麦川橋周辺までの約400mについて、河川改修が完了し、洪水に対する防護機能が向上している。																																																							
	費用対効果分析		(単位：百万円)				大項目評価 Ⓐ ・ B ・ C																																																			
			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th rowspan="2">再評価時 (基準年：H24)</th> <th colspan="2">再々評価時</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体事業費 (基準年：H29)</th> <th>残事業 (基準年：H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">便益 (B)</td> <td>①一般資産被害軽減便益</td> <td>304</td> <td>395</td> <td>259</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②農作物被害軽減便益</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③公共土木施設等被害軽減便益</td> <td>513</td> <td>667</td> <td>441</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td>25</td> <td>44</td> <td>29</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>844</td> <td>1,108</td> <td>731</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>560</td> <td>712</td> <td>426</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>63</td> <td>79</td> <td>46</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>623</td> <td>791</td> <td>472</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益比 (B/C)</td> <td>1.4</td> <td>1.4</td> <td>1.5</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【費用対効果分析手法】 治水経済調査マニュアル(案)平成17年4月 国土交通省河川局</p> <p>【費用対効果分析における特記事項】</p> <p>①一般資産被害軽減便益：整備により軽減される家屋、事業所、農漁家の資産被害額 ②農作物被害軽減便益：整備により軽減される農作物被害額 ③公共土木施設等被害軽減便益：整備により軽減される公共土木施設等(道路、農地、農業用施設等)の被害額 ④その他の便益：施設の残存価値、整備により軽減される営業活動停止損失および応急対応にかかる費用</p>	区分	主な項目	再評価時 (基準年：H24)		再々評価時		備考	全体事業費 (基準年：H29)	残事業 (基準年：H29)	便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	304	395	259		②農作物被害軽減便益	2	2	2		③公共土木施設等被害軽減便益	513	667	441		④その他の便益	25	44	29		総便益	844	1,108	731		費用 (C)	①事業費	560	712	426		②維持管理費	63	79	46		総費用	623	791	472		費用便益比 (B/C)		1.4	1.4
区分	主な項目	再評価時 (基準年：H24)	再々評価時				備考																																																			
			全体事業費 (基準年：H29)	残事業 (基準年：H29)																																																						
便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	304	395	259																																																						
	②農作物被害軽減便益	2	2	2																																																						
	③公共土木施設等被害軽減便益	513	667	441																																																						
	④その他の便益	25	44	29																																																						
	総便益	844	1,108	731																																																						
費用 (C)	①事業費	560	712	426																																																						
	②維持管理費	63	79	46																																																						
	総費用	623	791	472																																																						
費用便益比 (B/C)		1.4	1.4	1.5																																																						
事業の進捗状況及び今後の見通し	事業進捗の現状 事業進捗の今後の見通し 事業計画変更の必要性	事業延長1,500mのうち、千歳橋から中麦川橋周辺までの約400mの河川改修が完了し、順調に進捗している。 中麦川橋周辺から上流に向けて、引き続き計画的な事業進捗に努める。 【事業計画変更の必要性の有無】 有 (無) 【事業計画変更の理由及び内容】	大項目評価 Ⓐ ・ B ・ C																																																							

2 再評価の視点	(4) コスト縮減・代替案等の可能性	<p>【コスト縮減の検討状況】</p> <p>背後地の土地利用や既設護岸の状況から、一部区間では片岸引堤として計画し、既設護岸を有効活用する。 建設残土の処分においては、周囲の公共事業と調整して可能な限り流用することとし、コストの縮減を図る。</p>	中項目評価	大項目評価
		<p>代 替 案</p> <p>【代替案の検討状況】</p> <p>代替案として「捷水路案」や「遊水池案」などが考えられるが、経済性等の観点から、現計画の「河川改修案」は妥当である。</p>	中項目評価	大項目評価
	<p>(5) 環境への影響と配慮</p> <p>【環境への影響事項：動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況】</p> <p>当地区に生息する代表的な動植物は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物：ヨシ、ヤナギ等 魚類：ハヤ、ドンコ等 鳥類：コサギ、コガモ等 <p>【環境への配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川内工事に際しては、汚濁の恐れがある場合は、沈砂池を設置し、汚濁防止対策を講じる。 低騒音・低振動の建設機械を使用する。 護岸については、動植物の多様な生息・生育環境に配慮した構造とする。 		大項目評価	
	(6) 地域の立地特性	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 		
3 事業実施主体案 対応方針	総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 見直し継続 <input type="radio"/> 中止		
	評価理由	麦川川沿川地域の浸水被害の軽減を図るため、事業を継続する必要がある。		
	備考			

むぎかわがわ 麦川川 広域河川改修事業



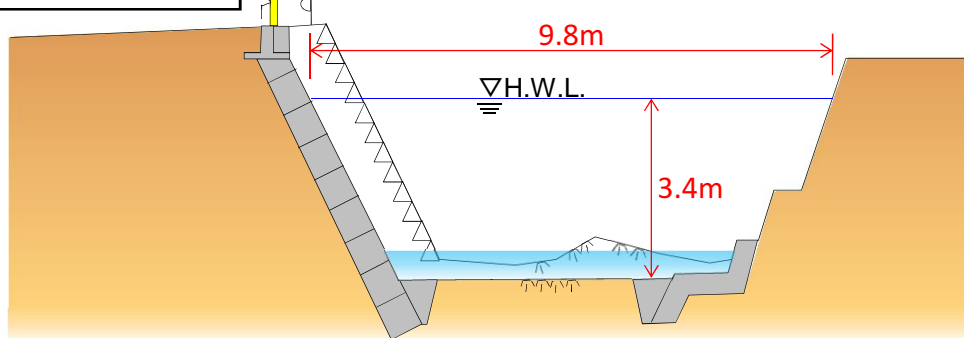
過去の出水状況 (H15. 7)



事業区間 (中麦川橋付近)



標準断面図 (中麦川橋付近)



この地図は、国土地理院の地理院地図(電子国土Web)の一部を掲載したものである。